

予算事業 ID 006423

(事業名) 孤独・孤立対策推進経費

(担当部局) 政策統括官（共生・共助担当）／孤独・孤立対策推進室

－公開プロセスの評価結果－

<取りまとめコメント>

① 成果指標に関して

・新しい社会課題に対応しようとしている点は評価できるが、目的の曖昧さ、エビデンス不足、指標設定の難しさが課題である。有識者会議での検討を踏まえつつ、孤独・孤立の施策の内容を深掘りしていただきたい。そのためには十分な実態調査が前提となろう。

② 事業の改善に関して

・有識者会議の議論を踏まえつつ、一定期間内に対応することを行動計画として示すことが重要である。とくに、地域住民側から見て当面何を克服しようとしているのかを分かりやすく表現していただきたい。

<外部有識者のコメント>

①成果目標に関して（ex. アウトカムが適切に設定されているか、事業の進捗や効果について成果目標に照らした点検及び改善が行われているか 等）

・孤独・孤立がなぜ悪いのかが十分に分析できていないため、アウトカム指標が抽象的であったり（安心できる社会を実現する）、間接的なものに留まっている（官民連携プラットフォームが設置される）。

・エビデンス不足、指標設定の難しさが課題とされているが、現段階は交付金を通じて試行錯誤を蓄積する段階にあるのではないか。当面の間は多くの事例を収集し、これを整理し、後続の自治体の参考となるようなモデル作りに取り組まれるべきではないか。その上で、一定の期限経過後に再度指標を検討するという点でもよいかもしれない。

・新しい事業なので、何をすべきかも定まらないと思うが、目指すものが見えない。具体的に目指す方向から、逆算して、その年度に何をすべきか、検討していかない限り、中途半端な事業になってしまう。

・現時点では成果を「測る」ということは困難と認識しています。

・孤独の実感自体が統計として存在しているので、何らかの変数コントロールを行ったうえで、事業を実施した自治体や、プログラムを実施した NPO の範囲等において、孤独実感が改善したかを計測するチャンスがある事業だと思いました。

②事業の改善に関して（ex. 同じ又はより少ない予算でより多くの成果を引き出す工夫はないか 等）

・新しい分野であってただちに対応できる状況にないことは理解できるが、健康上のリスクになるから・自殺の要因になるからなど孤独・孤立から生まれる問題状況を捉えてそれを減少させることをアウトカム指標として設定すべきであり、有識者会議での検討を踏まえて一定の期間内に対応することを行動計画として設定することが望ましい。

・多くの自治体で自殺対策の取組が一定程度進展しているところ、例えばこうした自治体側の自殺対策の担当部局との連携については、手がかりとすることもできそうである。

・漠然と孤独、孤立にある人をサポートするといいつながら、予算を費消していくのではなく、具体的に、どういう方向を目指すべきか明確にして、事業を進めるべき。

・何をすべきか、わからないのであれば、まずは、実態調査を十分に行い課題を把握することが重要。

・孤独という言葉の解像度が資料 p45 の統計のように、寄与度的に分析された評価がありますので、年齢や社会環境別にそのハザード度を一定程度数値化し、事業の優先度を定める取り組みがあるべきです。

・いつまでに、どの程度の仮説を検証するかの期限を入れていただきたいです。

・目的を増やしてしまう議論ですが、被災地における取組みも検討されたいです。

③その他

・孤独・孤立対策には多くの地域住民の協力が必要である。したがって、地域住民側から見て当面何を克服しようとしているのかについては国民目線で分かりやすい状態とされた方がよい。少なくとも、自治体プラットフォームによって何がなされるのか、についてはより明確であるようにしていただきたい。

・生成AIを活用した孤独感の解消は、実態として普及している側面があります。AIガバナンスを含む懸念を差し引いても多くのユーザーが、持続的に価値を感じているものであり、一定の考慮・検討を行ってもよいかもしれません。